



## 定演を振り返る

7月9日の練習後、遅ればせながら、3月の定演の感想を顧問、コンミス、トレーナー、一部PLにお聞きしました。どれも、聞き流すにはもったいない貴重なご意見ばかりなので、ここに掲載させていただきます。なお、記憶の曖昧さ、勝手な誇張表現をお許しください...

♠全体構成良、チェロ、ファーストの独奏はよかった。司会も手短でよかった。

♡何度も聞いていると初めてのコンチェルトとして、頑張った感が沸いてきました！  
ただし、静かな曲で音程の乱れがありました...

♠春、夏ともに2楽章が難しかった。聞いていて、おやっと思う部分があった。

♠バランス的には、ヴァイオリンがパワー不足。

♡加藤さんのイメージを上手く表現することが大切、難しさを感じますが。

♠出だしが合わせにくい場合は、プルート内でアイコンタクトなどで合わせた方が良いですね。  
その点、池淵君は上手い。TBS系「題名のない音楽会」のオケの合わせ方は参考になります。

◇息を揃えること！

♠まず、タテの線を合わせると、印象が良くなります。

◇お客は何を求めて、入場料払ってきているかを考えるんじゃ！

◇まずは、「自分たちは（上手ではなくても）楽しくやっています！」という雰囲気を出すべき  
だすこと、そうすればお客もまずは来た甲斐を感じる！

田部顧問が語る！ 新年度難曲の数々 op.2

ドボルザーク(1841~1904)作曲  
スラブ舞曲 ホ短調 op.72-2

ドボルザークの代表的作品の一つである16曲のスラブ舞曲(第1集op.46, 第2集op.72)ははじめは4手ピアノ曲として書かれ、特にその第1集は彼の出世作ともなった。今日ではピアノ連弾でもよく演奏されるが、ドボルザーク自身による管弦楽編曲によって「超名曲」になっている。

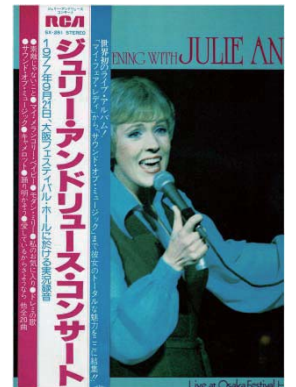
通し番号では第10番のこのホ短調の曲は、<稀代のメロディスト>ドボルザークらしい美しい旋律で知られている。(ちなみに、op.46-2もホ短調)

この曲は「スラブ舞曲」というタイトルにふさわしく、主部はウクライナの「ドウムカ」そして中間部はポーランドの「マズルカ」のリズムとフィーリングが取り入れられている。オーケストラ版ではバイオリンが主旋律を受け持っているが、我々が使うアレンジもバイオリン(特に1st)が活躍するのでVnパートは頑張ってください。

田部慈洋

## 自慢の「一枚」

Julie Andrewsの  
「Live in Jpn '77」  
勿論、レコードで、  
CD化されず、入手  
困難のレア品。ド  
レミも歌ってます。



## サウンドオブミュージック 事始め その2 「Julie Andrewsのこと」

この映画を初めて観た日、私の級友のほとんどが、Julie Andrewsのファンとなった。まさに一夜にしてである。その中の一人は、ファンレターを書き、ちゃんとサイン入りブロマイドが送り返されてきた。彼女が律儀だったのか、そういう時代だったのか？

彼女は、1964年に、「メリーポピンズ」でアカデミー主演女優賞を獲っています。サウンドオブでも勿論ノミネートされますが2年連続は無理でした。

サウンドオブでも名曲揃いだけど、メリーポピンズも劣らず名曲が一杯です。なぜかこっちは小学生の時リアルタイムで観ました。

彼女は「My fair lady」の舞台で主役を演じましたが、映画の主役は、Audrey Hepburnにさらわれます。でも、それでよかった？ 私じゃ、Audrey ファンなので。